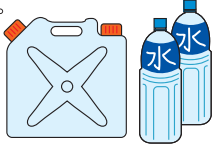


非常時用備蓄品（例）

非常時用備蓄品は、災害復旧までの数日間（最低3日分）を生活できるように準備しておきましょう。

飲料水

飲料水は1人1日3リットルを目安に。ペットボトルや缶入りのミネラルウォーター。また、防災タンクにためておく。



非常食品

米（缶詰やレトルト、アルファ米も便利）、缶詰やレトルトのおかず、ドライフーズ、チョコレート・アメなどの菓子類、梅干し、調味料など。



燃料

卓上コンロ、ガスボンベ、固形燃料。



その他

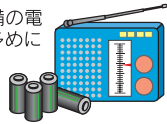
生活用水（風呂や洗濯機に備蓄。幼児に注意して）、毛布・寝袋、洗面用具、ドライシャワー、なべ、やかん、防災タンク（ポリタンク）、バケツ、各種アウトドア用品など。



非常時持出品（例）

携帯ラジオ

予備の電池は多めに用意。



救急医薬品

常備薬、絆創膏、傷薬、包帯、風邪薬、胃腸薬、鎮痛剤など。



貴重品

現金、預貯金通帳、印鑑、免許証、健康保険証、権利証書など。



懐中電灯

できれば1人1つ。予備の電池も忘れずに。



非常食品

カンパン・缶詰など火を通さなくても食べられるもの、非常用食品、ミネラルウォーター、缶切り、栓抜き、紙皿、紙コップ、水筒など。



その他

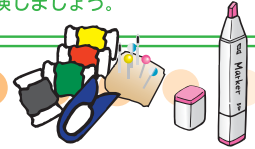
下着・上着などの衣類、タオル、生理用品、粉ミルク、離乳食、紙おむつ、ウェットティッシュ、合羽、ヘルメット、ライター、ラップフィルム（止血や汚れた食器にかぶせて使う）、ハザード防災マップなど。

非常時持出品は定期的に点検を！

いざというときに支障のないように、食品類の賞味期限や持出品の不備を定期的に点検しましょう。

避難生活が長引くときに便利なもの

携帯トイレ、使い捨てカイロ、裁縫セット、ガムテープ、地図、さらし、筆記用具（マジックなど）、スコップなど。



阪神・淡路大震災で役に立ったもの

ポリタンク、ホイッスル、予備の眼鏡・補聴器、ビニールシート、新聞紙などや、補助用具としてロープ、スコップ、バールやハンマー、のこぎり、車のジャッキなど。

非常時持出品は、使用するとき支障のないように、定期的に点検しておきましょう。とくに食品や飲料水の賞味期限は早めにチェックし、賞味期限が過ぎたものから順に入れ替えておきましょう。

災害用伝言ダイヤルの使い方

災害用伝言ダイヤルとは？ NTTでは、災害発生時に、被災地への通話がつながりにくい状況の場合、被災地内の安否等の情報を音声で録音、再生する「災害用伝言ダイヤル」を設置します。

伝言の録音	171-1-0000-00-0000 (相手の電話番号)	伝言保存期間	録音してから48時間
伝言の再生	171-2-0000-00-0000 (自宅の電話番号)	伝言蓄積数	1電話番号あたり10伝言まで
伝言内容	1伝言あたり30秒以内	利用可能電話	一般電話（プッシュ回線、ダイヤル回線）、公衆電話、携帯電話（一部除く）等

町内の医療機関

病院名	所在地	電話番号

わが家の防災メモ

家族の集合場所	
避難所	
避難場所	